



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2016・04・01 第112号



東京の国立競技場が建て替えのため解体撤去されたため、神宮外苑からダイヤモンド富士が見えるということから多くのカメラマンが集まったことが新聞で報道されました。

ダイヤモンド富士は、富士山の山頂部と太陽が重なって生じる光学現象で、太陽がダイヤモンドのように美しく見えるためこう呼ばれています。ちなみに月が山頂部と重なる場合はパール富士と呼ばれています。

山頂から西側では日の出の時(昇るダイヤモンド)、東側では日没時(沈むダイヤモンド)が年 2 回、快晴で大気が澄み水蒸気の少ない状態であることなどの気象条件がそろった時にだけ見られる光景です。

山頂部と太陽が重なることは富士山に限らずどの山でも起こりうることでダイヤモンド〇〇山、というのは、富士山に限らず全国津々浦々にあるのではないのでしょうか。もちろん茨城県にもダイヤモンド筑波があります。

自宅から車で 30 分ほどのところにある筑西市(筑波山の西側)に撮影スポットがあります。母子島(はこじま)遊水地です。ここは昭和 61 年の小貝川水害の後に整備された遊水地で、中央に池があり、池の周囲には桜が植えられ、春には桜、また、筑波山をバックに「逆さ筑波」や水面に映える朝日、紅に染まる夕霞など変化に富んだ写真が撮れます。そして年に 2 回、筑波山山頂から太陽が昇る「昇るダイヤモンド」の「ダイヤモンド筑波」を見ることができます。しかも遊水地の池水面に写りますので、ダブルダイヤモンドが見られます。

今年の第一回は 2 月 14 日ですが、天候の関係で、ちょっと早いのですが、2 月 12 日行ってき



ました。撮影の条件は快晴で空気が乾いていること、風がなく遊水地の水面が波立っていないことと絵になる雲が出ていることです。今年は、撮影の腕前は別にしてまあまあ条件でしたので、ダブルダイヤモンド筑波が撮影できました。

次回は 10 月 28 日前後です。再度挑戦するつもりです。

さて、ニッサンメールマガジン第 112 号をお届けします。

農研機構と 3 法人が統合し、新たなスタート

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(以下、「農研機構」)は、平成 28 年 4 月 1 日に国立研究開発法人農業生物資源研究所、国立研究開発法人農業環境技術研究所及び独立行政

法人種苗管理センターと統合し、各法人が担ってきた業務や役割を継承して、新たな組織として出発します。

統合後の新組織の名称は引続き「農研機構」（正式名称：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）です。統合後の新しい農研機構の研究・業務概要の発表は、4月1日の予定です。

新しい農研機構は、食料・農業・農村に係る問題を解決するため、研究開発の利活用を見据えた基礎的な研究から応用・実用化までの研究開発を総合的に推進します。また、優れた成果を創出するとともに、それらを広く社会に移転し、安全な食料の安定供給、産業競争力の強化、環境保全及び新たな価値の創造、我が国の地域と社会の持続的発展を通じ、「攻めの農業への転換」に貢献します。

農研機構ホームページより

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/naro/061834.html

市販機器で自作可能な放牧向け自動飲水供給システム

「農林水産研究成果 10 大トピックス」は、新聞記事となった農林水産研究成果のうち、内容に優れ社会的関心が高いと考えられる成果を農林水産省農林水産技術会議事務局が選定するものです。

2015 年の選定成果 10 課題の一つに選ばれた畜産草地研究所草地管理研究領域・中尾上席研究員が開発した「市販機器で自作可能な放牧向け自動飲水供給システム」は、放牧地で一般的に導入されている太陽光電気牧柵システムを電源として活用し、市販の直流ポンプ等を組み合わせることで、放牧家畜に必要な飲水を河川等から自動的に供給できる装置です。耕作放棄地等の放牧で重要となる家畜の飲水管理の省力・軽労化が実現でき、低コストで自作可能な装置であることから、今後広く活用されることが期待されます

酪農・豆知識 第 106 号の概要および URL

牛乳の消費量が減少してきています。また乳製品は TPP の大筋合意に伴って、今後輸入拡大が予想されています。これに対応するためには、牛乳・乳製品の一層のコスト削減と高付加価値化が求められます。その一つの方向として放牧飼養によって生産された生乳(以下“放牧生乳”)を原料とした牛乳・乳製品を付加価値を付けて販売しようという動きがあります。このためには、消費者の正しい情報を提供する必要があります。

詳細は「酪農・豆知識」第 106 号では放牧生乳の機能性についてまとめてみました。この「酪農・豆知識」はどちらかといえば酪農の生産者向けの情報が多かったのですが、生産者といえども消費者との情報交換が重要な時代になってきていますので、この様な企画をしてみました。

「酪農・豆知識」は、当社のウェブサイトのトップページにある「技術情報」をクリックし、「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

添付のPDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。